



魚市場での競り



環境を背景に持続可能性等の評価を取り入れたFSC、ASCの認証制度を活用して、多様な顧客層の共感を引き出す、裾野の広い事業展開や販路の開拓等に取り組み、足腰の強い産業基盤の構築に努めてまいります。

また、水産業については、ふ化場や魚市場の整備効果を

発現するためにも、主力魚種でありますシロサケを中心に水揚げ増加を図り、農業については、全てのほ場整備事業が完了することから、関係機関との連携をさらに強化し、営農組織の運営や生産性向上に向けた指導・助言を実施いたします。

さらに、南三陸ブランドの構築は一次産業に限らず、町そのものをブランド化する取り組みも必要であります。このため、バイオマス産業都市構想の実現やラムサール条約の登録推進、また、東日本大震災を教訓とした取り組み等も併行して進めてまいります。



子育て支援の充実

急速に少子化が進行し、家庭や地域を取り巻く環境が変化する中で、平成29年度においても、引き続き、出生率の向上にも資するよう、妊娠期から子育て期まで、切れ目のない子育て支援を実施し、安心して子育てができる環境を整備する等、若い世代の出産・子育ての希望がかなうまちを目指して行くとともに、さらなる子育て支援策として、給食費の無償化について、その実現可能性を調査・検討してまいります。

移住・定住人口の増加

人口流出と出生率の低下が招く人口減少は、地域社会の存続に大きく影響を及ぼす問題であり、住民生活への影響も避けられません。バランスのとれた人口構成を目指し、持続可能で活力ある地域社会を次世代へとつなげていくためには、地域を支える若年層をはじめとした移住者の呼び込みを行うとともに、移住者

の働く場所・機会の拡充及び住居の確保等が必要となります。また、若い世代が安心して子育てができる環境の整備も必要となります。

このようなことから、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、平成27年度に策定いたしました「南三陸町総合戦略」に掲げる目標が達成されるよう各種事業に

取り組んでまいります。さらに、人口減少の要因の一つと考えられる未婚化・晩婚化・晩産化の社会問題に対応するため、人生のパートナー探し の機会となる「街コン」の実施について、積極的に検討してまいりたいと考えております。

地域コミュニティの再構築

居住地の高台移転に伴う住民ニーズの多様化・複雑化に、人口減少や高齢化の進行が拍車をかける中で、これからのまちづくりは、地域の人々が互いの生活を支える「共助」の精神が重要と考えております。



そのため、日常生活の中で町民同士の交流機会を創出する場として、地域のお祭りやイベント等への支援や地域の交流拠点となるコミュニティセンター等の設置支援を継続して実施してまいります。

以上の、5つの主要方針の基本的な考え方を述べさせていたいただきましたが、冒頭に述べましたとおり平成29年度は、ハード事業からソフト事業への転換期として、これまで取り組んでまいりました復興事業の効果を最大限に発揮するようソフト事業を中心に取り組むこととしております。また、本町が常に変化し、小さくてもきらりと光る町として発展していくためには、これ

南三陸町の未来へともに歩もう。



また、町内唯一の高等学校であります志津川高校についてですが、人口減少に比例する形で生徒数が大幅に減少しております。まちづくりを進める上で志津川高校は大きな役割を果たしており、高校存続のため、延滞は、地域づくりを担う人材育成のため、志津川高校のさらなる魅力化向上に向けた取り組みを支援いたします。

らの事業と併せて行財政改革を進める必要があり、行財政改革の推進にあたっては、平成28年度に策定いたしました「第2次南三陸町行政改革大綱」に基づき、聖域無き改革を進めることとしております。

宮城県 南三陸町への移住をご検討の方へ